卒業論文の要旨

論文題目	桜美林大学町田キャンパスにおけるグリーンインフラの有効性
氏名	小菅悠莉
メジャー	環境学

（要旨）

本研究では“みどり”を私達の生活に潤いをもたらし、都市基盤の形成に重要な役割を担う緑地施設と定義し、みどりやグリーンインフラ機能がもたらす効果が、私達の日常生活にどのような影響をもたらし、また、その恩恵を実感して生活しているのかを明らかにすることを目的とした。私が所属し、学生生活の大半を過ごした桜美林大学町田キャンパス内に 5 カ所の調査地を設定し、グリーンインフラの導入例や、都内優良緑地への実地調査を通して、日常生活に組み込まれた緑地環境とはなにかを考察した。本研究を通して、緑地の管理状況と学内関係者の利用状況、植生と生態系への配慮度の検証を通して、桜美林大学町田キャンパス内にある 5 ヵ所の対象緑地は、グリーンインフラの機能を有する施設であるのかを検討した。

本研究では、緑地認証制度に登録されている緑地の現地調査をはじめ、学内調査および植栽に関する聞き取り調査、学内緑地植生調査、学内関係者へのアンケート調査、東京都が発行する緑地評価シートを利用し、管理者、研究者、利用者、行政の4つの観点から学内緑地を調査及び評価を行った。

学内関係者を対象とした学内緑地に関するアンケートの中で、学内の植栽がよく管理されていると考える人が半数以上であった。それの理由として、毎年大幅な増減が少ない安定した管理予算と常駐する造園業者による積極的な緑地管理体制であると考える。学内関係者は、花壇の整備状況や造園業者が作業する様子をよく目にするといった意見を持つ人が多く、緑地管理に対する積極性を表すことに寄与していると考えられる。

また、学内緑地の利用状況について、施設ごとに差は生じるものの、授業や課外活動、学生生活等で利用されていることが明らかになった。一方、緑地施設を利用する授業は環境や生物学に近いものが多く、文系科目の授業が多い桜美林大学は、利用者に極端な偏りが発生していると考える。一方で、普段学校生活を送る上であまり目につかない施設への知名度は極めて低く、常時開放を希望する声も多く見受けられた。調査対象地 5 ヵ所を植生と生態系への配慮の観点から検証した結果、高木から草本までの三層構造がある施設 2 カ所（欅の広場、旧学生生協前芝生広場）の評価が高く、学内には生態系に配慮された施設を有することが判明した。

以上より、桜美林大学が有する緑地は、施設ごとに差異は生じるものの、グリーンインフラの機能である文化的サービスや、調整サービス等の効果が発揮されていると判断した。

優良緑地として評価される三井住友海上駿河台ビルでは、ヒメアマツバメのような非常に貴重な動物の住処となっていた。今回、動物や昆虫の視点からの評価が出来なかったため、生息する昆虫・動物の視点からの評価も加えるべきであると考えた。また、学内緑地の二次利用に関して、今回のアンケートより、単発的なイベントや利用が多かったため、定期的な開放やイベント等で活用し、環境教育と学生の探求活動や実習と組み合わせた利用を促進する仕組みを作ることで、よりよい緑地活用が促されることが強く望まれる。

（指導教員の推薦コメント）

グリーンインフラは、近年になって広く知られるようになった概念ですが、人間と自然の共生を考える上で、極めて重要な役割を持っています。本研究は、対象を桜美林大学町田キャンパスに絞り、グリーンインフラの考え方に基づいて、さまざまな観点からの評価を試みたものです。類似の研究例がほとんど見られないテーマと研究のアプローチをとっており、卒業研究として高いオリジナリティーを有している点が最大の特徴です。研究内容だけでなく、論文としてのボリュームも十分あり、卒業研究としても、卒業論文としても、十分に通用するものであるといえます。これらのことから、優秀卒業論文（卒業研究）に十分相当するものとして、推薦いたします。